

三鷹まちづくり総合研究所「サステナブル都市三鷹研究会」
第4回議事録要旨

日時 平成23年8月23日（木）午後6時30分～午後8時30分

会場 三鷹ネットワーク大学

出席者 濱野周泰（座長）、矢内秋生（副座長）、朝倉薫、斉藤伸也、石坂和也、岩崎好高
事務局 三鷹市環境政策課 三鷹ネットワーク大学

【議事録要旨】

（注）この議事録は抄録であり、すべての発言が掲載されているものではありません。

○岩崎研究員 最初に「三鷹市におけるサステナブル施策の基本的な考え方と展望について」について説明する。一中略一

三鷹市という地域に落とし込んで、実現可能性があるようなまちを見据えていく中でどのようにしたよいかという検討をした。一中略一

○朝倉研究員 三鷹市とはどんな都市なのか。三鷹駅を中心とした商業地域や、本当に緑豊かな地域が特徴的だと思う。また、大学などの学園都市もあり、住宅地域で、農地があるが、企業というのが、比較的少ないという印象であった。一中略一

今まで、出てきたいろいろなアイデアを図に落とししてみた。

例えば、駅のところに職住一体型のコミュニティをつくったらどうかと。オフィス勤務に比べると、在宅勤務でも、テレワークセンターでも、かなりCO₂の削減効果はある。通勤をすることによって、排出されるCO₂の部分も減らすことができる。

また、コンパクトシティを目指すには交通も便利でなければいけない。カーシェアがマンション自体についているところもあるし、サイクルシェアなどもある。

一方、北側の職住一体型のコミュニティ以外に、中心部より南側はかなり緑が多いところで、中間地域などはエコタウンとして活用ができる地域があると思う。低層住宅が多いということもあり、日当たりのいい場所が多いので、例えば、太陽光発電を使った住宅があてはまる。更に南に行くと、もっと緑が広がっているようなイメージがあって、田園都市を活用して、地域の特産物とか、地産地消みたいなものができるような環境をつくっていくといいのではないかと思う。

三鷹市については、私の印象だと、地域の中核となる病院や、大学があり、実は、都市として、とても住みやすい場所だと思っている。それが三鷹市全体に普及するためにどうすればいいのかというところで、例えば、中核病院を拠点に介護サービスが充実し、教育サービスができ、ジブリを特徴としてアニメ産業が発達するなど、そういうものを活用できたらなど。そこにICTが活用できるのではないかというところで、このイメージ図を書

いた。

○岩崎研究員 「サステナブル都市を三鷹市で実現するためのキーワード」について説明
—略—

○齊藤オブザーバー(企画部) 「第4次基本計画骨格案」について説明—略—

○濱野座長 具体的な場をイメージして、こんなことがサステナビリティにつながるのではないかというものがあれば話してほしい。いかがか。

○齊藤オブザーバー 緑を中心としたまち、その森をつなげて、ジブリの森とか、三鷹の森とか、都市の中にある森をうまく使えたらと思う。

○朝倉研究員 やはり三鷹市の特徴としては、緑が特徴的なところがあるが、その一方で、車を持っていけばすごい便利なまちだと思う。しかし、車がなかったときの移動手段がかなり限られてしまうというのが気になる。コンパクトシティとか、サステナブルシティを目指そうとしたときに、三鷹が活性化していくためには、その地域、地域を拠点とする、それがエコタウンだったり、住宅街だったり、商業地域だったり、いろいろあるかと思うが、それを結びつけるようなまちづくりが、交通の面からも必要なのではないか

○濱野座長 具体的に、例えば、15分歩くと不便だとか、バスで10分は遠過ぎるとか、そういう指標はあるのか。

○朝倉研究員 個人個人で皆さんが持っているものがあると思う。緑があって、気持ちよく住める環境で、かつ利便性があると、非常にいいのかなと。

ヨーロッパのコンパクトシティを見てみると、主要な駅というのは路面電車については24時ぐらいまで走っている。反対に自動車などは、通勤に使う人は少なくかなり減ってきている。よく行くジュネーブは、観光客がホテルに泊まるとトロリーバスの無料券が配られ、それを使ってくださいと。すると、タクシーも何も使わなくて、非常に快適に過ごせる。

利便性というのはある一定の基準を皆さん持っているのという印象を受けている。

○濱野座長 基準って、どのぐらいか。

○朝倉研究員 私だと、駅から歩くと10分、バスだと、イメージ的には、23時台まで走っているようなところだと。

○濱野座長 ライフスタイルもあるかと思うが、深夜まで仕事される方と、普通に定時ちょっと、9時には在宅の方もいる。

○矢内研究員 もう一度、まち全体を、例えば、人が移動するという視点に立って少し設計し直すという発想があってもいいかもしれない。5～10分ぐらいのところを1つのスケールにして、まちをそういうふうに見たときに、どのくらい快適に歩ける場所が形成されているか、どのくらいのところは苦痛になっているかというのを見るということが1つあって、苦痛になるところがあるようであれば、何かが足りないという発想をしてもいいだろうと思う。

緑のネットワークでもいいのだけれども、歩くルートを整備して考えていく。

○岩崎研究員 車にするのか、歩いていくのか、バスに乗るのか、自転車で行くのかという選択肢をもうちょっと広げられて、車を使わないようなものを三鷹で考えるとすると、やはり自転車になる。

○濱野座長 自転車のシェアをするのであれば、市内の大学と連携するといいかもしい。

○矢内研究員 何事も行政がやってしまうのではなくて、ハードルの低いところから、市民の方々の動きをうまくバックアップしながら成功体験に結びつけていく、そんなようなものがあってもいいのではないか。

○矢内研究員 例えば、ヨーロッパなどはそうだと思うのだが、生活道路に車が入ったときには制限時速6kmとか、極端に落とすようになっている。通り抜け禁止とか。そういうようなことも街区、街区で、それこそ住民の方々がやって、行政の方がバックアップして、人間中心のまちを増やしていくということをやっていくといいのではないかと思う。

○岩崎研究員 それは、コミュニティ創生の一部とも連携をして、これから違う研究会でも議論されると思う。

三鷹で、こんなことがあったらできるなというようなアイデアを出していただきたい。

○濱野座長 エネルギー創生の方法というか、活動の源としてエネルギーをどうしても取得しなければいけないというのがあるのだろうと思う。住宅団地全体で太陽光パネルを乗せる。大きいデベロッパーがやるときには、それなりに制度的な部分で少し条件に乗ってあげるということをすればいい。

○大高オブザーバー 地域の問題、基盤をどのようにしていかななくてはいけないというところがポイントなんだと思う。

○事務局 野々垣 市役所の機能を集中しなくてもいいのではないかという発想もある。この間の震災のことを考えると、一か所に集中することは実は危険なのではないかと思いはじめたので。住んでいる感覚から、この道路は自転車などで走っていて快適だという道路と、ここはできたら避けたいとか、そういったところが結構ある。人見街道という歴史のある樹木があっても、それを保存することがこの先難しいと言われているが、できたらバックアップして、緑をなくしたくないと思っている。

○事務局 岩本 サステナビリティというのは非常に幅広い話だと思う。環境基本計画の策定に携わっている関係から、どうしても今回のこの議論をどういう範囲で反映していくかという視点で見えてしまうが、特にエネルギーとか、緑とか、そういったところについて、より具体的な、もし議論が深まる部分があれば取り入れていきたいと思っている。

○事務局 立花 都市交通関連で、交通手段の充実だったり、効率化だったり、移動の効率化が議論されたが、逆の観点で、拠点をなるべく平面に広げて、移動距離そのものが小さくなるような話が出てきた。さらに、ICTを活用したテレワークの効率化というような話が出る一方で、コミュニケーション不足みたいなものをカバーするためにまちに出やすくする。そういう、一見すると対立したり、反対になるようなことも、結果的にはサステ

ナビリティみたいなところで、両方、何の違和感もなく内包されている。そういうところにすごく、一個一個、個別にはわかるのだけれども、全体としてわかりにくい、そういうものがあるなど。計画の提案というところまで行くとすると、観念的なところだけで別途整理をして、それまでの具体的なキーワードみたいなものをつなげるとわかるのかという感じがする。

○事務局 森 三鷹市というと、自然が多い、森が多い。「森」という言葉は個人的にかなり好きなので、「三鷹の森」というイメージがある。世間でも三鷹市は住みやすいと言われているが、実際住んでみたら、意外にそうではなかったということを市民の方に言われることがあるので、是非、今回の研究会を通じて、三鷹がより便利になればいいと思っている。

○齊藤オブザーバー(企画部) サステナブルということで、今回は環境に特化したような話かと思ったのだが、サステナブルの中の経済、社会とかで環境があってというような、そういう可能性を考える中で、1つは、先ほどからエネルギーの話が出ていたけれども、地域のエネルギー政策、先ほど冒頭に基本計画の話があったけれども、基本計画の中で、スマートコミュニティの研究推進というものを挙げていて、それをイメージしたのが、例えば、三鷹の駅前の再開発とか、市役所の隣の新川防災公園、東京外郭環状道路周りの土地、ある程度まとまったエリアをイメージしてスマートコミュニティができないかなという思いで、基本計画の中では対応している。その中で、省エネ、蓄電、発電、その3つが合わさって何かできないかなというような、エネルギーの政策で、地域でできないかなというのがある。

交通政策と環境政策が統合されて、地域の移動空間とか、都市空間の中でのサステナビリティが何かできないかと思っている。また、環境政策としての土地利用とか、農地の保全とかも併せて考えていった方がいいと。やはり税収とかを考えると、環境政策と産業、雇用などもサステナブルの中では重要になってくると思う。この中で、三鷹だと、駅前の中心市街地の活性化というのが目玉になってくると思うし、三鷹で進めている買い物支援事業なども、全市展開すれば、買い物圏の話というのもだんだん見えてくる。

大きい話で、地球温暖化、自然保護というのも、サステナブルの環境の中では重要なことになってきて、では、三鷹で何ができるのかというところが今後の課題ではないか。この報告書がどういった形になるかというのは、もうちょっと議論が必要なのかと思う。

○岩崎研究員 「報告書 目次(案)」の確認をお願いしたい。次回までにご意見を。いろいろな形で情報をいただきたい。

○濱野座長 本日の会議は終了とする。ありがとうございました。